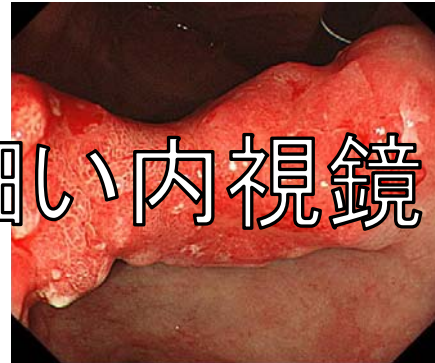
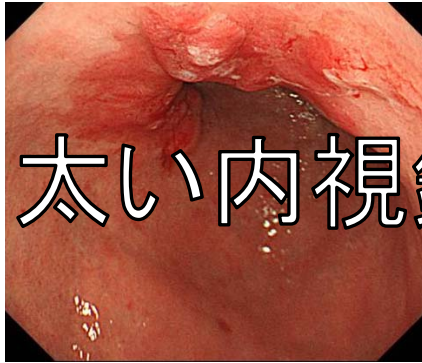




財団法人早期胃癌検診協会

News Letter

第1版：発行日 平成21年12月18日



太い内視鏡・細い内視鏡

細いカメラで検査を希望

ご意見をいただきました

「職場の指定で『早期胃癌検診協会』の人間ドックを受診したが、その際の胃カメラのホースが太かった。最近ではホースの細いのあるのだから、それに替えてほしい。検診後の社内では、いつもこの話題がもちきりです。」

ご紹介します

- ・ 内視鏡は、どこまでみえるのか
- ・ 内視鏡は、どこまで細くなったのか
- ・ 細い内視鏡の利点と欠点
- ・ 楽な内視鏡検査

経口内視鏡

検診を受ける多くの方は「経口内視鏡」による検査を受けています。現在のファイバーの太さは10mm程度です。

経口 $\Phi=10\text{mm}$



うどん

経鼻



経口



経鼻

経鼻内視鏡

「経鼻内視鏡」は鼻からファイバーを挿入するものです。ファイバーの太さは6mm程度です。

経鼻 $\Phi=6\text{mm}$



経鼻内視鏡

挿入は鼻から

「経鼻内視鏡」は、太さが6mm程度で細く、鼻孔から挿入できます。ノドへの刺激が少なく、呼吸が楽で、検査中に話もできます。

時間がかかります

鼻粘膜は敏感で、鼻孔は狭く、複雑な形です。検査前の麻酔には工夫を要し、時間がかかります。十分な観察能力を持っていますが、機能的に限界があります。

- ・ 照射光量に限度があり、一度に観察できる範囲が狭い。
- ・ 送気吸引チャンネルが細く、粘液や胃液の除去に時間がかかる。
- ・ 検査時間も長くなる。

使い分ける

- 1 こんなときは「経口内視鏡」
精密な検査、短時間に検査を済ませたい。正確な組織採取。
- 2 こんなときは「経鼻内視鏡」
 - ・ 持病がある
 - ・ 楽な検査優先
 - ・ 時間がかかっても良い

始めました

当協会でも「経鼻内視鏡検査」を始めました。ご希望の方はどうぞご相談ください。

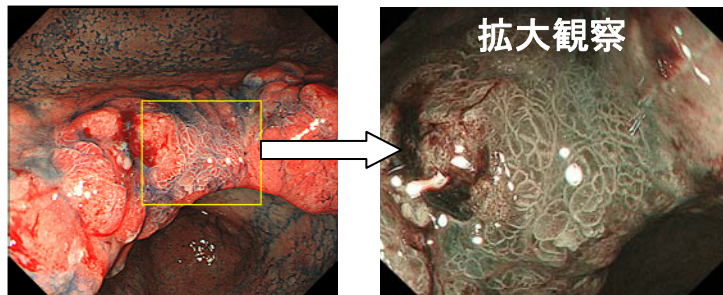


経口内視鏡はよく見える 精密・確実

『基本は経口内視鏡』

「経口内視鏡」は日本で開発され、世界中に普及しています。いわば日本がパイオニア的存在です。当協会は、胃を主とする消化器を専門とする検診・診療機関ですから、その検査に使用する内視鏡は最新のものです。現在の内視鏡先端部の太さは10mm程度で、「経鼻内視鏡」よりは太いですが、優れた機能を備えています。

「経口内視鏡」は画素数や光量が多いので、明るく、視野も広い。ため、よく見えます。したがって、精密な検査には「経口内視鏡」が適しています。



「経口内視鏡」は、出血などの緊急時の対応が迅速かつ正確に処置できます。(経鼻内視鏡では止血処置はできません。)



以上のことから、当協会では、基本的には経口内視鏡で検査しています。

楽な内視鏡検査をご紹介します

- ・ 『前処置をまじめに』 ノドや鼻の麻酔を充分にすることが、楽な検査の基本です。
- ・ 『鎮静剤を併用』 検査中「ボーッ」として楽です。検査後、1時間くらいの安静が必要です。
- ・ 『経鼻内視鏡も楽』 ノドへの刺激が少ない、呼吸が楽、検査中でも話ができます。

はじめての試みでニュースレターを発行しますが、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。